

日根野中だより

令和 5年 9月 12 発行 日根野中学校 校長 武田 博之

持つべきは、素直な心…

何に対しても素直に受け取ることができる方が幸せだと思いますね…。自分の意見、感情が上回りすぎて周りの意見・考えが全く入ってこない状況は避けなければいけないと思います。確かに、素直に受け取りすぎ、目先の判断で損をしたと感じる場合もあるかもしれませんが、でも、その方が人間らしい生き方のように感じます…。人のいいところを見つけ、納得するように意味づけをしてみる…その中で、その人の心…そういう見えないところまで感じとること…これが心を磨くことなのだと思いますが…どうでしょうか。自分自身も含め、案外理解できていないものですよ…。その辺りを素直に捉え、まずは人の意見に対して、素直に耳を傾けること…。自分の意見はもちろん持つべきですが、それと並行して他人の考えもしっかりと受け入れる心を持つこと…。そこから何かが始まるのだと思います。素直な心を持つことは、人間が成長するために、必要不可欠な能力だと感じます…。

自分の行動のすべては、自分が選んで行っている…

人は自分の行動を100%コントロールする力を持っています…ということは、よく考えてみると、「腹の立つ出来事が起こった…」のではなく、言い方を変えれば「起こった出来事に腹を立てることを選んだのは自分…」ということが言えるのです。起こった出来事を、自分はどうか考えたかということなのです。自分が無理に怒ることを選ばなくても良かったとも言えるのです…。結局は、自分が腹を立てることを選んだのです。そういう意味でも「人は自分の行動を100%コントロールする力を持っている」…といえるのだと思います。

教師である以上、いろんな場面で生徒に声をかけます…。優しく、ゆとりをもって指導できる場面も、もちろん多いのですが、

自分の行動のすべては、自分が選んで行っている…
よって導き出された結果はすべて自分の責任…
その覚悟を

やはり全体を考えて注意する場面も…。誰かの身に危険が及ぶと想定される場合は、厳しく叱る場面はもちろんあります。でもそのあらゆる場面で、自分の行動は「生徒があんなことをするから…」ではなく「自分がその行動を選んでいるのだ！」…ということを忘れないようにすれば、教師として「頭は冷静…心は熱い」…と感じ取ってもらえる声かけにつながるのでは？…と感じます。

真剣に生徒と向き合い、苦しみ、もがいている先生方の姿を毎日見る中で、そんなことを考えてしまいます…。

<凡事徹底…> 心の在り方…がんばるとは？

風に向かって歩み続けること…お正月の凧に例えて…それが「がんばる！」…ストレスの特効薬は「笑顔」…「笑顔の花」を咲かせるには、根から養分・水分を吸い上げることが大事…。人間にとって、その養分・水分とは…一体何？…。他人の「笑顔の花」から養分を吸い取ってしまうような、ニセモノの笑顔にしていないか…。そんな花は必ず枯れる…。中学生期は特に、内面を磨く時…。この時期に磨いていると勘違いし、外面ばかりを着飾ることを覚えてしまうと、内面を磨き、人間として大きく成長するチャンスを失うことに…。

苦しい時は上り坂… 逆に楽に感じる時は要注意！

それはすべてが、下っている時なのです…

～～～「流汗悟道」～～～

人間、しっかりと体を動かし、人のために汗をかいてこそ（努力してこそ）悟ることができるようになる…。その「悟る」とは、物事の真理が見えてくるという意味…。物事が成立している裏には、必ず誰かの手による「おかげ様」がある…。人間一人では生きていけない…必ず誰かに助けられて生きている…という「真理」が見えてくる…。そうなれば、有り難いという気持ちから、その誰かに感謝し、自分自身動き始める…誰かのために…これが感動（感じて動く）…。 “流汗悟道”

<保護者のみなさまへ…>

前回の「日根野中学校だより」でもお伝えした通り、今年度9月29日(金)に開催予定の連合スポーツ大会(予備日10/3(火))については、昨年度まで実施していました観覧の学年制限はしません。ただし全て従来通りと考えていたのですが、5類に移行したコロナやインフルエンザが近隣の中学校でも蔓延し、大変な状況にもなっています。よって原則、全学年保護者の方のみの観覧とさせていただきます。何よりもみなさんの健康・安全・命を守る…その上で子どもたちの人間的な成長を図る…これがすべてです。ご理解くださいますようお願い申し上げます。